

全国医療ソーシャルワーカー協会会長会 第 33 回会議 議事録

日 時：2024 年 11 月 9 日（土）13:30～17:00

会 場：＜現地参加＞ 三重県総合文化センター 大研修室（生涯学習棟）
＜オンライン参加＞ Zoom

参加者：別紙名簿を参照

1. 開会の挨拶

中村代表（東海・静岡県協会会長）からご挨拶頂いた。

2. 議長の指名

会場からの立候補はなく、代表により、坂詰副代表（北信越・新潟県協会会長）が議長に指名、出席者から賛同を得て、議事進行を務めた。

3. 講演

野口日本協会会長より「日本医療ソーシャルワーカー協会の活動や国の動き」について講演があった。
※別紙資料①

4. 提案

清野事務局から会長会会則の変更に伴う WG について紹介があり、まず先に藤田前会長会代表から「会長会の歴史やこれまでの活動経緯について」報告があった。 ※別紙資料②

藤田前代表の報告を踏まえ、日本協会と都道府県強協会の役割や立場などが異なり、現在の活動に合っていない面もあると捉え、会則などを見直す目的でワーキンググループの立ち上げとメンバーの募集を提案した。 ※別紙資料③

5. 報告

2024 年度基礎調査の結果について、西田事務局から報告があった。 ※別紙資料④

6. 質疑応答・採決（14：15～14：25）

上記 4. の提案、5. の報告を実施後、提案について審議し、会場、オンラインからの質疑はなく、反対はなく承認となった。

————— 休憩 —————

7. グループワーク（14：45～16：50）

（話題提供⇒グループワーク⇒共有）の順に以下のテーマで 3 回実施した

＜話題提供者＞ ①大分県協会 脇坂会長より、「組織継続について」別紙資料に基づき話題提供があり、その後グループワークを実施した。グループでの内容を会場とオンラインで共有した。

・【オンライン参加・石川県協会中本会長】

全国からの震災支援について御礼の言葉があった。

役員のなり手がいないとの話題合が挙がり、理事会や協会運営は大切だが、参加が出来ていない会員もいる状況。診療報酬に持って行かれている。能登半島地震でも感じたが、MSW になる人が少ないという悩みを持っている。

・【直接参加・岐阜県協会竹山会長】

役員のなり手が居ない。研修参加者から引き込む。世代交代していく。三重県協会は、全国大会の運営を機に若手が入って来ている。

20代、30代はMSW協会に入る意義が薄れている。楽しくやっていきたいという話しになって、そこで時間切れとなった。

- ② 岡山県協会 森田会長より、「会員減少について」別紙資料に基づき話題提供があり、その後グループワークを実施した。グループでの内容を会場とオンラインで共有した。
 - ・【オンライン参加・青森県協会袴田会長】
話を聞いて、会員減少については増減があまりないグループだった。話題は会費の未収に件になり、分割対応などを行っている協会もあった。その後、未入会の件になり、未入会会員の機関を訪問し2年関係性を構築して入会になった例や初年度だけ入会金を無料にする例もあった。コロナ禍で会費無料、研修開催を平日か休日にするかの検討をしている、10人以上など多人数が在籍する機関のMSWが未入会という話があった。
 - ・【オンライン参加・千葉県協会浅野会長】
会員の減少になった所2か所、微増になった所2か所で色々だった。会費未納で強制退会となる運用をしている所、会員管理のソフトを作って管理し易くしている所、顔の見える関係を作る為に会員情報誌を作成する所などがあり、会員の維持、増加に向けて取り組んでいた。
 - ・【直接参加・岩手県協会小泉会長】
グループ内の協会はおおむね会員減少していた。魅力的な運営を支援している、新卒者の減少、学生が職業としてMSWを選択しておりアイデンティティを持つ事が出来ずに現任者になっている事が要因との意見があった。会費の負担、職場で完結してしまっている等の意見があった。
- ③ 静岡県協会 中村会長より、「法人化について」別紙資料に基づいて話題提供があり、その後グループワークを実施した。グループでの内容を会場とオンラインで共有した。

全グループワーク終了時に、栃木県協会荻津会長より総評を述べられた。

8. 報告（16：50～16：55）

2025年度全国大会（三重）について、小坂実行委員会委員長よりプログラムや会場準備の状況などをお話し頂いた。

9. 閉会の挨拶

（直接参加者）会場見学

【次回第34回会議について】

次回の会長会会議の日程は、2025年6月20日（金）の午後で、会場は津市内で手配予定。調整付き次第、事務局より会長会各位へ共有する予定。